

167

歴史散歩



みずのおこうぼうだいしどう 水尾弘法大師堂

一志地域から県道久居美杉線を西へ進み、一志白山トンネルを抜け、左側にある川口白山比咩神社へ続く鳥居を過ぎると、雲出川の支流の大広川に沿って上流に延びる道があります。この道を1.4kmほど進むと、民家のそばで狭い林道となり、さらにゴルフ場を左手に700mほど進むと水尾弘法大師堂に至ります。このお堂は川口白山比咩神社の中にある真言院の奥の院といわれています。

参道の左側には、年中枯れることがないといわれる井戸があり、弘法大師が開削したと伝えられていることから、弘法井戸と呼ばれています。川口白山比咩神社に伝わる古文書には、真言院で経典を写経する際に使用する硯の水をこ

の井戸からくみ上げたという伝承が記されています。現在、井戸の前には祠があり、中に石仏が安置されています。

大師堂の境内にはさまざまな石造物がありますが、珍しいものとしては境内奥の斜面にある石製の露盤が挙げられます。露盤とは大師堂の屋根の頂部にもあるような宝珠を載せる台状の部材で、瓦製や金属製のものが多い中、石製のものは類例がありません。また、側面に刻まれる格狭間と呼ばれる装飾の形状などから中世末期から近世初期のものと考えられます。

大師堂の境内は、参詣者の皆さんによって美しく整備されています。春の爽やかな風に吹かれながら訪れてみてはいかがでしょうか。



水尾弘法大師堂



石製の露盤



弘法井戸

